

3 これからの三島村

わたしたちの住む三島村は、まわりを海でかこまれています。そのため、いろいろと不べんなことやこまったことがあります。鹿児島などへの行き来や、生活にひつような品物を運ぶには、主に船しかありません。また、わかい人が島を出て行くので、島に住む人数が毎年少なくなっています。それに、仕事をする場所が、とても少ないことなどです。でも、人びとは力を合わせて、自分たちのたいせつなふるさとの三島村をもっと住みよい所にしようと、くふうしています。

たとえば、平成13年、「みしま」が新しくなりました。それまでの船より、大きくなり、荷物や人をたくさん運べるようにしました。スピードも速くて、鹿児島までの時間がずいぶん短くなりました。大きな荷物などはクレーンでつみおろしていましたが、車やフォークリフトなどでじかに運べるようになりました。

また、村は、少しでも人口をふやすために、三島村に住みたい人のために住たくをたてたり、くらしのお手伝いをするなど、うつり住みやすいようにしています。それから、いろいろな所で、たけのこなどのおみやげを売ったり、俊寛祭りやヨットレースのしょうかい、ジャンベのえんそうなどをして、三島村のよさをみんなに知ってもらうための活動もしています。平成16年には、硫黄島に、キャンプなど外での活動や学習をするための鹿児島市の施設「冒険ランドいおうじま」ができます。鹿児島から、たくさんのお友だちが勉強に来ることになっています。

三島村には大きな工場や会社はありませんが、たけのこ、つわぶき、シイタケ、つばき油など、ゆたかな自ぜんをり用して、三島村でしか

できないものを作ったり、しつのよい牛を育てたりしています。また、近くに魚のとれるよい場所があるので、港作りをしたり船を大きくしたりして、ぎょぎょうをさかんにしようとしています。

そのほか、三島のきれいな海やけしきをり用したかんこうにも、力を入れようと考えています。竹島では、海の中をさんぽする「スキューバダイビング」を新しく名物にしようという計画も進められています。

それから、わたしたちの生活につながりのある学校、しんりょう所、道路なども、もっとよくしようと計画を立てています。

みんなの工ふうやがんばりのおかげで、三島村は、昔とくらべるとずいぶん便利になり、くらしやすくなりました。これからも、ちえを出し力を合わせて、もっとすみよい村にしていきましょう。

これからの三島村を考えて

- ・ 住みよい三島村にするために、のこしたいことや変えたいことなどを話し合ってみましょう。
- ・ ^{みらい}未来の三島村のようすをそうぞうして、絵や文にまとめ発表会をしましょう。